

「乳幼児期の運動発達のパターンと3歳時における 診断横断的プロファイルの関係」の研究について

1. 研究の対象

2017年3月から2025年8月までに独り歩きができる前の運動発達のゆっくりさから理学療法（リハビリ）を行なった患者さん150名です。神経発達に影響を与える疾患がある場合は対象外としました。

2. 研究目的・方法

乳幼児期の歩く・立つ・座るなどの日常生活や成長に不可欠な動作である粗大運動発達が遅れる場合や発達のパターンが通常と異なる場合は神経発達症（いわゆる発達障がい）と関連性があることが多数報告されています。一方で神経発達症では多数の合併症がみられることから、診断横断的にメカニズムや行動を捉えることが注目されています。特にリハビリにおいては、診断名にとらわれず、本人や家族、保育者等がどんなことで困っているのかを把握することが重要です。しかし、乳幼児期の運動発達のパターンとそれらの困りごととどのように関連するかは議論が不十分な状況です。よって、本研究では該当する理学療法を行ったお子さんの運動発達のパターンと、就園時期である3～4歳時点での困りごととの関係を明らかにすることを目的としました。

方法は電子化カルテの情報から、7～16ヶ月の運動発達の変化のパターンからグループ分けを行います。次に、3～4歳時点での本人や家族、園の保育者の困りごとをカルテより調査します。そして、それらと運動発達のパターンとの関係を統計学的に明らかにします。

研究期間は病院長承認日から2027年3月30日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・年齢、性別、周産期情報、疾患名
- ・理学療法評価：7～16ヶ月での粗大運動発達の評価（アルバータ乳幼児運動発達評価）
- ・3～4歳での困りごとの情報

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：磐田市大久保 512-3 場所：磐田市立総合病院 リハビリテーション技術科

Tel：0538-38-5000（代表） 研究責任者：一之瀬 大資